

風 (現場) からの

宮田守男

県内で6月に早くも最高気温35度以上の猛暑日を5日記録、気象庁は6月末に今年初の「熱中症警戒アラート」を出した。また大

北地域も5日連続の真夏日や2日には白馬村では34・6度の7月過去最高の気温を記録するなど、まさに異常状態だ。

全国からは気象異変による猛暑で農作物への悪影響や水不足の懸念が伝えられている。今週は全国的に雨や曇りの日が多く、最高気温も下がる地域が増えそうだが昨年から太平洋の赤道付近では日付変更線から南米沿岸にかけて海面水温が低くなる「ラニーニャ現象」が発生していて猛暑は9月ごろまで続く可能性があるが指摘されている。

イベントが計画されていると晴天を祈願して「照る照る坊主」を軒先に吊るした記憶がある人は多いが、今年「照る照る坊主」を逆さまに吊るして雨乞いする「逆さ坊主」の出番が多くなるのかと

多くの人に分かりやすく伝えよう

考えてしまう。雨が降りだす前のおいを「雨香」といい、湿った花の香をのめる日々を楽しみたいと雨の大切さを考えさせられる気象異変に遭遇している。

7月1日に国税庁は、相続税や贈与税の算定基準になる2022年分の路線価を発表した。白馬村北城の村道和田野線は、対前年比の上昇率が全国第一位の20%。1平方メートルあたり2万4000円。軽井沢旧軽井沢銀座通り最高路線価24万円

対して、10分の1。他のリゾート地比べ坪単価が安い状況は、コロナ禍による遠隔勤務拠点を求める年代層や、猛暑を懸念する高齢者世代、訪日客の需要をにらんだ不動産業者らによって、土地売買の需要は増々高まっ

て行く。また地域内には、大規模開発を検討できるエリアもある。この問題を個々の需要だけで対応するのではなく、地域の将来ビジョンと整合させながら、住んでいる人たちが将来の

をゆかいに、そしてゆかいなことは、あくまでゆかいに」と。多くの人に分かりやすく伝えようとする

地域の将来ビジョンと整合させながら、住んでいる人たちが将来の



猛暑で2回・4回終了時に給水タイム5分間の対応は初めての経験だ

ライターが今求められている。 (信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)